

# 平成17年 上越市「市民の声アンケート」

## <参考資料>

この資料は、みなさんが、調査票のp.11にある問19「今後の市政や上越市におけるまちづくりについて、あなたのご意見をおうかがいします。」にお答えいただく上での参考資料です。  
 現在の上越市の現状やこれまでの取組の一部について、分野ごとに紹介しています。  
 (この参考資料は、返信用封筒に封入しないでください。)

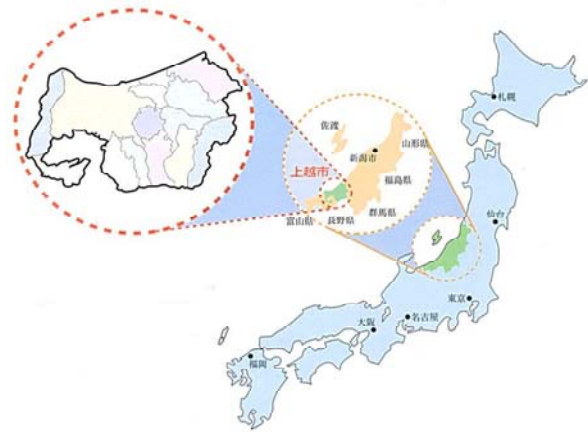
### 基礎情報

#### 位置・市域

平成17年1月1日に、14の市町村（上越市、安塚町、浦川原村、大島村、牧村、柿崎町、大潟町、頸城村、吉川町、中郷村、板倉町、清里村、三和村、名立町）の合併が実現し、「新生上越市」が誕生しました。

新生上越市は、新潟県の南西部に位置し、北は柏崎市、南は妙高市、長野県飯山市、東は十日町市、西は糸魚川市に隣接しています。

市域は972km<sup>2</sup>と非常に広く、東西に44.6km、南北に44.2kmとなっています。

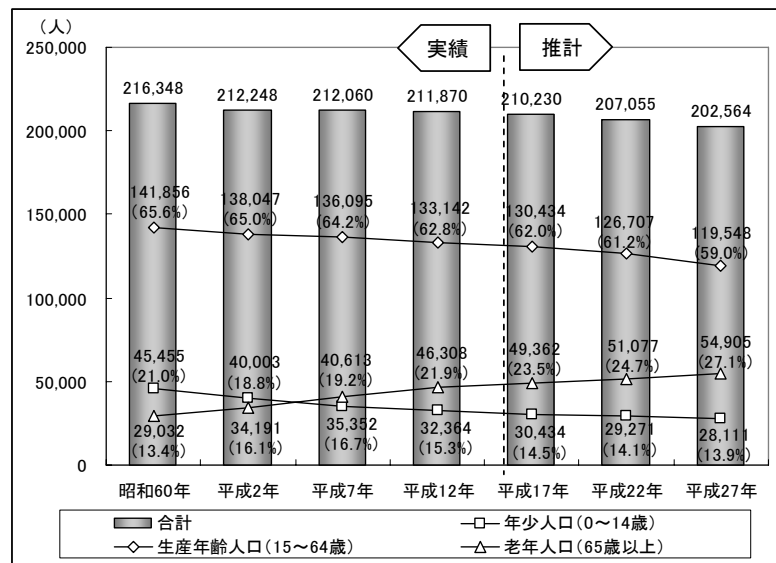


#### 人口

市の人口は、昭和60年に216,348人（旧14市町村の合計値）であったのをピークに減少傾向が続いており、平成12年（2000年）には211,870人となっています。

また、年齢別の人口比率は、15歳未満が15.3%、15～64歳が62.8%、65歳以上が21.9%となっていて、65歳以上の人口が15歳未満の人口を上回っており、高齢化の進行を物語っています。

今後の人口推計においても、少子高齢化と人口減少が続くものと予測されています。



総人口及び年齢区分別人口（出典：国勢調査、(財)統計情報研究開発センター）

※「合計」には、年齢不詳者が含まれるため、各年齢別人口の合計と一致しない場合があります。

# 分野別情報

## 都市基盤・生活基盤の整備 ～安全・安心に暮らせるまち～

### 【現状】

- ・ 上越市は古くから交通の要衝として栄え、現在も北陸自動車道、上信越自動車道のほか、JR 北陸本線、JR 信越本線、ほくほく線、直江津港など高速交通網が整備されています。
- ・ 昨年11月には新潟県中越大地震を体験し、災害対策への関心が非常に高くなっています。

### 【主な取組】

- ・ 北陸新幹線や上越魚沼地域振興快速道路などのプロジェクトを推進しており、三大都市圏とのアクセスの向上が期待されます。
- ・ 市民が安全で快適に暮らせるよう、地域の憩いの場としての公園のほか災害に強い道路網や河川・海岸の整備を進めるとともに、降雪期における行き届いた除雪体制と消融雪施設の整備などに取り組んでいます。
- ・ 美しい自然に恵まれていることを再認識し、調和の取れた景観形成に向けた取組を進めています。



北陸自動車道と上信越自動車道が交わる  
上越ジャンクション



安全・安心で景観に配慮した歩道整備

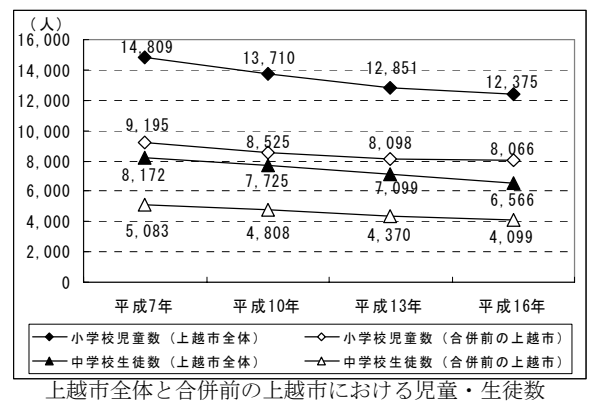
## 教育・文化の充実 ～21世紀を担う人づくり～

### 【現状】

- ・ 合併によって、小学校は55校、中学校は23校となり、どちらも以前の2倍ほどになっています。一方、児童・生徒数は減少しており、今後少子化が進む中で、地域の要望に応じた学校規模の適正化などが課題となっています。
- ・ 高齢化社会を迎え、いつまでも生きがいをもって生き生きと暮らせるよう、近年市民生活の豊かさを求める声が高まっています。また、団塊世代の定年退職も間近に迫っており、定年後の地域での活躍の場となる、まちづくりや生涯学習の充実が求められています。

### 【主な取組】

- ・ 小・中学校において、子どもが自ら学び、自ら考え、判断できる力を育成するため、地域の住民や自然、文化に学ぶ体験活動に取り組む「ときめき・まなびサポート事業」を実施しています。
- ・ まちづくりの担い手を育成する「まちづくり市民大学」の開催や年代・競技レベルを問わず多くの人々がスポーツに参加できる、総合型地域スポーツクラブの支援など、市民の生涯学習や文化活動に対する取組を支えています。



まちづくりの担い手を育成する「まちづくり市民大学」

## 健康と福祉の充実 ～暮らしにやさしさと笑顔～

### 【現状】

- ・ 今後高齢化は一層進むと考えられ、障害者とともに、高齢者の生活を支える健康と福祉の充実が求められています。
- ・ 平成12年4月にスタートした介護保険制度は順調に推移していますが、今後も国におけるさまざまな制度の変化があると予想されます。
- ・ 少子化の一因には、子育てと仕事の両立が難しいことなどが挙げられ、少子化に歯止めをかけるためにも、積極的に子育て支援策に取り組む必要があります。



居宅介護を支えるホームヘルパー訪問

### 【主な取組】

- ・ 高齢者福祉サービスの提供事業者のネットワーク化の促進や、寝たきり・痴呆予防事業の充実を図っています。
- ・ 全国に先駆けて24時間保育を行う「ファミリーヘルプ保育園」を開園し、延長保育や一時保育、放課後児童クラブやファミリーサポート事業などを行っています。
- ・ 市民が健康で満足した生活ができる社会を目指して、健康シティ上越・2010事業に取り組み、健康講座や講演会を積極的に開催して健康への関心を高めています。



24時間保育を行う「ファミリーヘルプ保育園」

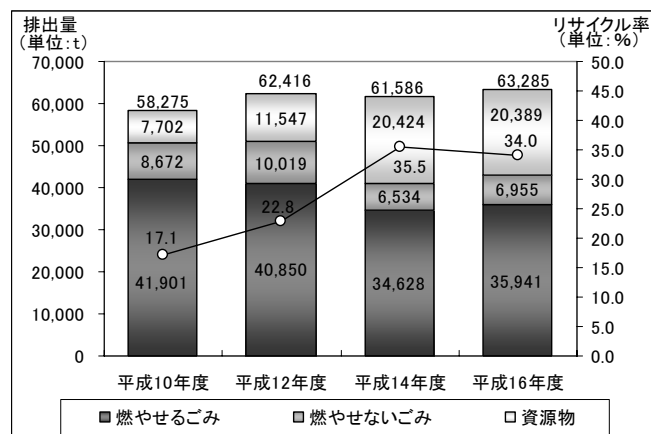
## 環境の保全と活用 ～自然と共生する循環型のまち～

### 【現状】

- ・ 全国の都市に先駆けて環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証を取得しています。
- ・ 平成10年度から16年度の7年間の間に家庭ごみのリサイクル率が17.1%から34.0%に増加し、市民の環境に対する意識が高まっています。

### 【主な取組】

- ・ 環境情報センターや地球環境学校、市民の森など、多くの自然環境を活かせるフィールドワークを中心とした環境学習活動を推進し、自然と共生する循環型のまちづくりを進めています。
- ・ 市民主体のリサイクル・リユース活動の支援をおこなっています。
- ・ 太陽光や風力、雪冷熱、バイオマスなどの新しいエネルギーに注目し、自然の恵みを実感でき将来にわたり安心して生活できる豊かな自然環境整備に取り組んでいます。



家庭ごみの年間排出量とリサイクル率



市民も協力して行うごみの分別収集

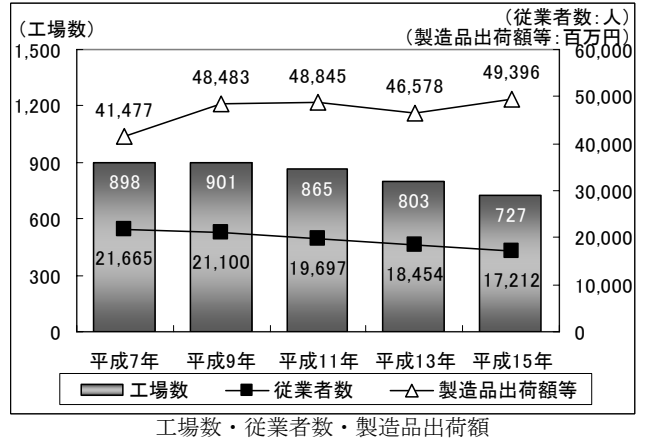
## 産業の振興

～地域の特性を活かした農業ビジネス～  
～はばたく企業の未来をサポート～

### 【現状】

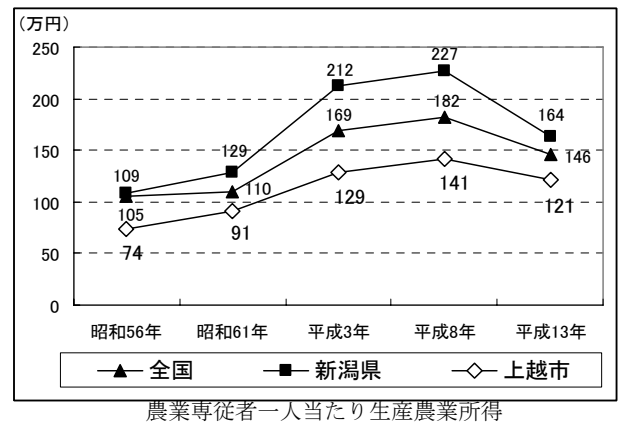
- ・ 合併によって、市内の水田面積は3倍となり、米の産出額は新潟市に次ぎ全国2位という規模になっています。
- ・ 日本海側の拠点港として発展を続けている直江津港には、国内線航路だけではなく、大連港・釜山港などを結ぶ国際定期コンテナ航路が開かれており、コンテナ取扱量が年々増加しています。
- ・ 地場産業の技術を活かしたハイテク素材や半導体、電子部品などのエレクトロニクス産業が集積し、世界の市場へ送り出されています。
- ・ 郊外型大型商業施設など新しい商業集積が進む一方、高田や直江津などの中心市街地における空き店舗の増加が見られます。

日本海側の拠点港  
となる直江津港



### 【主な取組】

- ・ 地域の基幹産業である農業の、中核的な担い手となる経営体の育成、新規農業参入者の研修や集落営農の組織化を支援しています。また、中山間部の地域特性を活かした農業の展開や田舎体験事業などによる都市と農村の交流を促進しています。
- ・ 企業訪問を定期的に行い、企業の意見・要望を産業施策に反映させるなど、企業が操業しやすい環境づくりに取り組んでいます。
- ・ 中心市街地ににぎわいを取り戻すため、上越 TMO (タウン・マネージメント・オーガニゼーション) を発足し、イベント事業など魅力ある商店街づくりを進めています。



## 市民主体のまちづくりの推進

～みんなで創る協働のまちづくり～

### 【現状】

- ・ 地方分権の進展や多様化する市民ニーズ、厳しい財政状況など、行政運営のあり方の転換機を迎え、今後は行政主導型から、市民が主体的・積極的にまちづくりに参画し、市民主体のまちづくりを図っていく必要があります。
- ・ 市内において、市民活動が活発に行われており、現在では市の NPO ボランティアセンターには 180 を超えるボランティア団体が登録しています。

### 【主な取組】

- ・ 市民による条例の素案づくりを行う「みんなで創る自治基本条例市民会議」を開催するなど、市民主体のまちづくりを進めています。
- ・ 地域協議会を設置して各区の市民の方から意見を聞いてまちづくりを進めています。
- ・ 情報公開をより積極的に進めるとともに、オンブズパーソン制度やパブリックコメント制度、地域協議会の活用などにより施策形成段階から市民の意見を市政に反映させています。

◇ お問い合わせ先 ◇ 上越市 企画・地域振興部 企画政策課 企画調整係 担当：小池、瀧本  
TEL：025-526-5111 (内線 1453) FAX：025-526-8363